

原料用甘しょ「ミナミユタカ」の生態的特性と施肥反応について

内村 力・上妻道紀・江畑正之

(鹿児島県農業試験場)

鹿児島県における工業原料用甘しょの栽培面積は現在約20,000haが栽培されている。主な品種は農林2号、コガネセンガンで、コガネセンガンが農林2号に変わって増加のきざしがみられたが、貯蔵性の点で農林2号に逆もどりしつつある現状にある。新品種ミナミユタカは、収量その他すぐれた特性を有することが明らかとなり本県でも奨励品種に採用された。本項ではその特性の概要と施肥反応について報告する。

1. 試験方法の概要

供試ほ場は灰褐色砂壤土で、栽培様式は畦巾75cm, 株間35cmとし、施肥量は施肥反応試験は、49年度はa当り窒素1.0~2.0kg, 50年度は0.4~2.0kgの5段階を設け、他の試験は標準施肥量とした。

2. 試験結果

(1) 塊根の肥大経過及び収量性について：塊根の肥大経過を知る目的で、5月20日植付し、コガネセンガン、農林2号と比較検討した結果、コガネセンガンの早期肥大型に対してミナミユタカは初期の低温時の肥大は少ないが高温時の肥大量が多く、しかも後期まで肥大を続ける晩期肥大型といえる。また地上部の繁茂量は旺盛であり、いも収量は場内、現地試験とも極めて多収を示した。でん粉歩留りは農林2号より高くコガネセンガンよりやや低い値を示した。しかしでん粉収量はいもの収量が多いためにコガネセンガンよりはるかに多い。

(2) 施肥反応及び各部位別の窒素、加里比率：ミナミユタカの施肥反応について耐肥性品種コガネセンガンと比較検討した結果、第1図に示すごとく兩年を通じて増肥による増収効果が顕著に認められた。したがって肥沃度の高いほ場でより増収効果を発揮し得る品種と考えられる。

乾物重の塊根への分配率と関係が大きいとされる葉身中のK/N比を第1表でみると、ミナミユタカは農林2号、コガネセンガンに比べて高い値を示し、塊根の肥大に有利なバランスにあり、このことは「つるぼけ」しにくい一つの重要な形質と考えて良い。

(3) 貯蔵性及び耐線虫性について：貯蔵性について収かく後低温処理区を設けて検討をおこなった結果、ミナミユタカは農林2号、コガネセンガンに比較して腐敗個体が少なく、貯蔵性がすぐれていることが認められた。また近年根腐線虫の被害が多くなっているが、本品種は線虫の被害も極めて少ない傾向がみられた。

3. 要 約

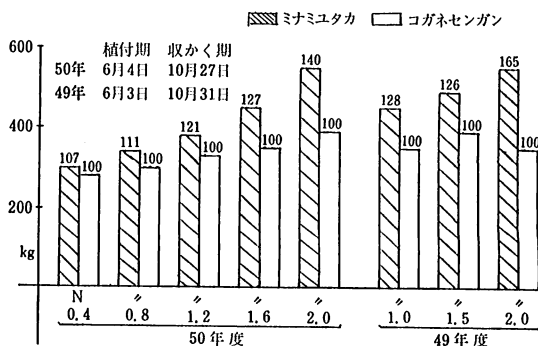
(1) 塊根の肥大経過はコガネセンガンの早期肥大型に対して、ミナミユタカは晩期肥大型といえる。

(2) ミナミユタカは農林2号、コガネセンガンにくらべて乾物重の塊根への分配率が高く増肥による増収効果が顕著である。また葉身中のK/N比が農林2号、コガネセンガンにくらべて高い値を示しており、塊根の肥大に有利である。

(3) その他の特性として条溝が少ないこと、線虫に強いこと、貯蔵性がすぐれていることなどがあげられる。

第1表 各部位におけるN:K,O対比

項目	地上部最盛期(7月31)			生育後期(10/6)		
	葉身	葉柄	茎	葉身	葉柄	茎
品種名						
ミナミユタカ	1.2	7.8	2.8	1.0	6.2	1.9
農林2号	0.8	7.2	3.2	0.8	4.6	2.1
コガネセンガン	0.9	7.0	2.4	0.9	4.6	1.4



第1図 施肥量と上いも重 (a当り)